



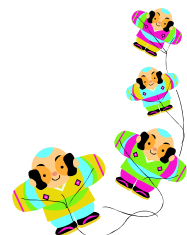
新しい年を迎えた
未曾有の経験を通して
自己・家族・友・仕事・人生・・・・
今ある事への感謝
きっと人間社会は誤解によって出来上がっているのだろう
この思いが伝わらない

新しい年が始まった
未曾有の経験を通して
自己・家族・友・仕事・人生・・・・
見直す事への機会
きっと人間社会は苦しみに縁（よ）ってしか学ばないのだろう
この思いは伝わるだろうか



今回の KOGA-ISO ニュースは、下記の7つがメインとなります。

1. トップマネジメント
2. TQM 通信 (第9号)
3. 同心会忘年会
4. はまゆう会野外レクリエーション
5. 春草苑年忘れ音楽会
6. 医療安全管理室より
7. NST 委員会より



1. トップマネジメント

理事長 古賀和美



あけましておめでとうございます。昨年は3.11の大震災があり、地震・津波・原発事故の3重苦に散々なめに会いました。今年もまだその影響は続くものと思われます。

今年には診療報酬と介護報酬の同時改正の年になっています。政府は長年続いた医療費抑制政策を見直し、社会福祉の充実に政策転換したはずですが、震災復興や財政再建の必要もあり、財務省からは医療費マイナス改正の声も強く聞かれます。中医協で大詰め協議がなされているものと思いますが、何とか最低でも前回並みのプラス改定を得たいものです。また、民主党与党は受診時定額負担という政策は断念したようですが、政府はそうではなく、中断であり、今年以降、再度、提案してくる可能性は大きいと思われます。100円程度の負担であり、大きな負担ではない！という理由は理由になりません。この政策は高額療養費制度の改善のための財源として考えられた政策ですが、元来、医療保険とは多くの国民の負担によって成り立つもので、外来患者のみに負担を求めることは原理原則に反しています。保険料か税金で賄うべきと考えます。

この政策の真の狙いは高齢者の外来受診回数抑制にあるのではないのでしょうか。確かに、社会保障維持・充実のためには保険料や消費税の増額の時期にきているのかも知れません。ただ、消費税に関して言えば、現状のまま消費税率が上がれば、医療材料費や流通費その他、増額になった部分はすべて病院サイドの持ち出し・負担となり、経営が大きく圧迫され、全国の医療機関は多かれ少なかれ存続の危機にさらされると言われています。そうならぬように何らかの仕組みが必要でしょう。

昨年、総合診療部の開設・地域医療支援病院の認可など、地域医療への貢献を強化できました。来春、池内の総合病院に新しい院長を迎え、色々な改革も進むでしょう。また、医局の移動・ICU設置・外来棟や産科病棟、臨床検査室、薬剤部の拡張・正面玄関の様替え・レストランやコンビニ設置のための工事も始まります。新たな飛躍を求めて職員の皆さんと共に努力したいと思います。

2. TQM 通信 (第9号)

日常管理について次のように定義したいと思います。皆さんのご意見をお願いします。

日常管理：各々の部門において、当然日常的に実施されなければならない業務である。

その業務目的を効率的に達成する為に必要な全ての活動を言う。

各部門が、年度方針等に左右されないで行う固有の業務である。

その業務を効果的・効率的に行い、“質”を確保する活動である。

日常管理の対象となる業務か否かは、毎日行うといった頻度できまるのではなく、業務方法が比較的明確に定まっている業務のことである。

次回は日常管理の設定についてです。

3 . 同心会忘年会

12月13日(火)医療法人同心会 忘年会が行われました。

はじめに、理事長先生より一年を振り返ってのご挨拶があり、同心会職員表彰と東日本大震災派遣職員への感謝状贈呈、内部品質監査員の表彰が行われました。

同心会功労者表彰

臨床検査技術部：清山 和昭部長

施設管理課：藤田 秀行さん

TQM推進部：小牧 保幸主任

臨床検査技術部：荒殿 悦子主任

感謝状贈呈

宮崎県「心のケアチーム」

日本医師会災害医療チーム

日本看護協会災害支援ナース

内部品質監査監査員表彰

監査10回達成者

飛高 光治副薬剤部長

柏木 理恵主任

主任監査員10回達成者

澤田 佳子主任



4 . はまゆう会野外レクリエーション

12月3日(土)佐土原文化センター(通称:くじら館)にて古賀総合病院 はまゆう会(糖尿病患者さんの会です)行事の一環として、野外レクリエーションが行われました。

まずはじめに、日高博之先生の東日本大震災時を通して学んだ糖尿病管理についての講義がありました。

災害時の対応について～くすり・食事面～

緊急時のために薬を余分に持っておくこと。

緊急時に必要な物をまとめて避難袋などにまとめておく。

薬の名前や・処方量 血統測定機器名 センサー名等を記録しておく。

食事などもすぐに取りれない可能性があるため対策が必要。



続いて、富田健一先生より、先生自身のダイエット経験談を交えてお話をいただきました。

糖尿病のカロリー摂取について

- ・なぜ食事療法が必要か
- ・一日に必要なエネルギー量
- ・栄養のバランスと働き

標準体重・脂肪量・筋肉量の関係から時間をかけた減量を

- ・運動時間、量、頻度

標準体重の算出法

富田先生のダイエット経験談

また、東栄養士からは、災害時の食事についてのお話がありました。

避難時の食事は糖尿病管理にもっとも重要です

水分はしっかり取りましょう

ゆっくり噛んで食べましょう

欠食やまとめ食いはせず、何回かに分けて食べましょう

野菜・きのこ・こんにゃく類から食べましょう

ブドウ糖は持ち歩きましょう



はまゆう会調理実習では、“クリスマス料理を作ろう”ということで、「ローストチキン」「こんにゃくのイタリアンソテー」「サーモンロール」「カクテルボード」の4品を作りました。さすがの主婦は慣れた手つきで、一方、手を切りそうな男性職員も奮闘し、楽しい時間になりました。

1時間30分経過後プロ紛いの料理がテーブルに並び、口の字型テーブルの中央には運営員が準備したクリスマスらしい飾りが彩りを添えて雰囲気盛り上げていました。参加者全員で記念撮影したあと全員で「いただきま〜す」。おいしく料理をいただきました。

最後に、リハビリテーション技術部の棕田氏より、筋力を強める運動について実習を受けました。椅子にかけたままで行う運動や立ったまま行うスクワットは見かけ以上にきついものでした。

学んで、作って、運動して...充実した内容で、参加者全員が笑顔で一日を過ごすことができました。



5 . 春草苑年忘れ音楽会

12月16日(金)春草苑の2011年最後の音楽療法、年忘れ音楽会が行われました。

玄関受付前には、生け花が並び、ステージ前にはクリスマスツリーが飾られ、普段より華やかな雰囲気の中始まりました。



稲澤洋子さんの軽快な進行で、手作りのシェーカーでリズムをとったり、歌に合わせてハンドベルを鳴らしたりしながら、利用者みなさんは思い思いに楽しまれていました。また、透明感のあるピアノを演奏して下さった熊谷静香さん、

よく通る声で美しい歌声を聴かせてくださった弓削サチ子さんと一緒に、会場は笑顔に包まれました。

ゲストには落合祐二さんを迎え、サクスの心地良い音色に静かに聴き入りました。春草苑のスタッフのみなさんも加わって、楽しい音楽会となりました。



6 . 医療安全管理室より

医療安全管理室 室 長 谷口正次

副室長 和泉貴子



新年明けましておめでとうございます。
- 今年もどうぞ宜しくお願いします -



「2011 年を振り返って」

専従のリスクマネージャー2年目の昨年は、初年度の倍速で時間が過ぎていったというのが実感です。2011年3月11日に未曾有の出来事「東日本大震災」が発生し、日本中の皆さんがその甚大な被害に無償の救いの手を差し伸べ、今も鎮魂と復興を願い貢献されています。私は日本医師会 JMAT(災害医療チーム)活動に参加した経験から「日常と災害時の医療活動、地域(官民一体)連携、人の有難み」などを勉強する機会を頂きました。また JMAT 活動関連の講演を医療者、PTA、池内地区自治会居住区役場生涯学習課から受け、貴重な意見交換の場も持たせて頂きました。

院内の医療安全推進活動も、部門部署の RM らと共に体制化に向け牛歩的に進んでいます。やはり今年も「心電図モニター、人工呼吸器の安全使用」は重要な課題ですね。何事も安全に留意する習慣があってこそ、これからの活動の意味があると考えています。風通しの良い職場環境で“職員・患者安全の文化”を皆さんと築いていきたいと思ひます。本年も宜しくお願い申し上げます。

和泉貴子

.....

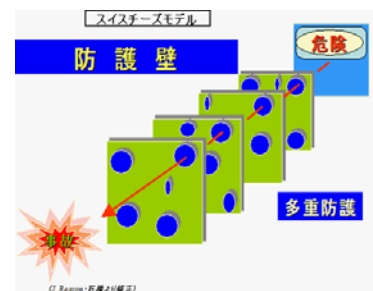


2011年11月29日、30日厚生労働省九州厚生局主催の医療安全ワークショップに参加しました。「ヒューマンエラーと医療安全」講演では、関東学院大学文学部現代社会学科教授 細田 聡先生「Just Culture への取り組みについて」を拝聴し管理部会で復講しました。

“誰もがその一躍(翼)を担う、職位によって担い方はさまざま”

Just Culture とは (by Dekker)

- トラブルから教訓を得ること
- 社会に対して説明責任を果たすこと
- 挑戦し続ける組織文化
- 上記2つの目的を実現することに挑むこと
- 決して、HE を裁くことではない



7. NST委員会より

診療部 後藤崇

NST活動の一つに、「栄養療法の普及・教育・啓蒙活動」があります。最近の活動のなかから、この教育・啓蒙活動について二つご紹介したいと思います。

NST 専門療法士研修会

当院は平成19年3月から「日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)NST 専門療法士教育施設」の認定を受けています。NST 専門療法士の資格取得には、JSPEN が設定した40時間の研修をこの教育施設において受講しなければならない条件になっています。当院でも昨年からの研修会を開催しています。受講対象者はNST 専門療法士取得を目指す院内外の看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師であり、昨年に引き続き今年11月28日(月)から12月2日までの5日間、朝から夕方までほぼ缶詰状態での講義・実技がありました。講師陣は診療部の担当先生方をはじめ各部署にそれぞれお願いし、忙しい日常業務の中で時間を作っていただき大変充実した研修内容になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。対外的な事の他に、講義の準備でNSTスタッフのスキルアップも計られることがこの企画での最大の収穫だと考えています。来年度も予定していますので、院内でNST 専門療法士取得にご興味のある方はどうぞご相談下さい。



実技「経鼻栄養チューブを入れてみよう、入れられてみよう！」

NST 出張活動・講演

12月16日、鹿児島県南さつま市にある県立薩南病院にNST チームとして講演招聘があり、外科医長 後藤と3階病棟看護師 速見、4階病棟看護師 松葉(いずれもNST 専門療法士)の3名で伺いました。同日はNST カンファレンスに参加、NST 回診のデモンストレーションを行い、その後3名による講演会を開催しました。院内外から100名超の参加があったようです。

当院でのNST 活動の様子や、実際の専門療法士の体験談を興味深く聴講されていました。夜の情報交換会では現場に即した悩み等、活発な議論が交わされました。



NST カンファの様子

今後もNST スタッフのスキルアップを模索しながら、更に院内外へとNST 活動を展開していきたいと考えています。